

## 山内文部科学副大臣祝辞（案）

ドイツ研究振興協会（DFG）日本代表部開設式  
日時：平成 21 年 4 月 15 日（水）10 時 30 分～  
場所：ドイツ研究振興協会（ドイツ文化会館内）

クライナー ドイツ研究振興協会会長、デア駐日ドイツ大使、ヴィツォレク  
ドイツ研究振興協会日本代表部代表、ご列席の皆様、この度、ドイツ研究振  
興協会が日本代表部を開設され、また、本日このように盛大な式典が開催さ  
れるにあたり、ご挨拶申し上げます。

まず、ドイツ研究振興協会日本代表部が開設されたことに対し、心よりお  
慶び申し上げますとともに、本日お招き頂いたことを感謝申し上げます。

ドイツと日本の関係は、緊密で友好的な長い伝統を有しています。また、  
貴国と日本の両国は、経済分野の関係にとどまらず、自由、民主主義、人権  
と法の支配等の価値等を共有する関係でもあります。その友好的な関係も、  
経済分野、科学技術分野、芸術分野など多岐にわたっています。

科学技術の分野においては、1974年に「日独科学技術協力協定」が締  
結されて以来、現在まで19回の日独科学技術協力合同委員会が開催され、  
両国の科学技術協力の推進のための協議が行われるなど、両国間の協力は着  
実に進展してきました。2009年は、第20回日独科学技術協力合同委員  
会の開催が予定され、現在、両国間で開催日程等を調整中と承知しておりま  
す。2005年度の研究者交流の実績は、貴国からの受入が1,554名、  
我が国から貴国への派遣が6,662名となっており、欧州の中で最も我が

国との研究者交流が多いのが貴国となっております。

ドイツ研究振興協会は1920年に設立されて以来、貴国の中心的な学術振興機関として科学技術の振興に大きな役割を果たされてきたと承知しております。我が国との関係で言えば、日本学術振興会との協定に基づく研究者交流の実施や、科学技術振興機構との戦略的国際科学技術協力推進事業の実施など、日独間の科学技術振興の推進に多大な貢献をされています。

現在、地球規模で深刻化する環境問題やエネルギー問題など、人類共通の課題が顕在化してきております。これら地球規模課題を解決し、国際社会の平和と繁栄を実現するためには、このような分野における優れた知見を有する両国が手を携えて世界をリードしなければなりません。我が国にとって重要なパートナーであるドイツとの科学技術協力は、日独両国の発展のみならず、持続可能な社会の実現のためにも是非とも進めて行くべき重要なものとなっております。

このような状況の中、今回、ドイツ研究振興協会日本代表部が開設されることは、非常に歓迎すべきことであります。これを機に、日独間の科学技術協力が、これまで以上に一層進展し、素晴らしい成果を生み出していかれることを期待いたします。

最後になりましたが、ドイツ研究振興協会日本代表部の設立にご尽力いただいた方々に敬意を表すると共に、同代表部の成功と、日本とドイツとの関係が益々発展することを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。